第3節　常盤構内の立会調査

1　工学部及び工業短期大学部職員宿舎取り壊し工事に伴う立会調査

調査地区　常盤構内

調査期間　平成4年8月7日

調査方法　工事施工時に伴う立会調査

調査面積　約9㎡

調査結果　工事は工学部地域共同研究開発センターの建設を目的として、既存の工学部及び工業短期大学部職員宿舎の取り壊しを行うものであった。その実務内容として建物基礎及び便槽の抜取りを行うもので、地下部分の破壊が予想されたため立会調査を行った。建物の便槽部分及びその周辺の土層を3カ所で確認した。

A地点　バラスなどを含んだ厚さ約30cmの表土層下は、厚さ約20cmの埋め土がある。その下、地表からは約50cm下に黄灰色粘質土の地山がある。なお、黄灰色粘質土の地山上面より74cm下に蛇紋岩の岩盤がある。

B地点　表土層は薄く約1～2cmである。表土層下は、A地点と同じく埋め土が客土されている。西側は厚さ約35cmの埋め土の下はすぐ蛇紋岩の岩盤であるが、東側に行くにしたがい埋め土層は薄くなり、黄灰色粘質土の地山が残されている。東側では、岩盤が下がっているらしく、地表下約46cmで検出される。

C地点　他のトレンチと同じく、厚さ14cmの表土層下に埋め土層があり、約20cmの埋め土層下は黄灰色粘質土の地山である。

西側にある研究・実験棟新営予定地と同じく、遺構・遺物の検出はなかった。当地区は広い平坦地になっているが、きわめて人為的なものである。工学部が立地する丘陵の頂部では、大規模な削平があったことが考えられる。

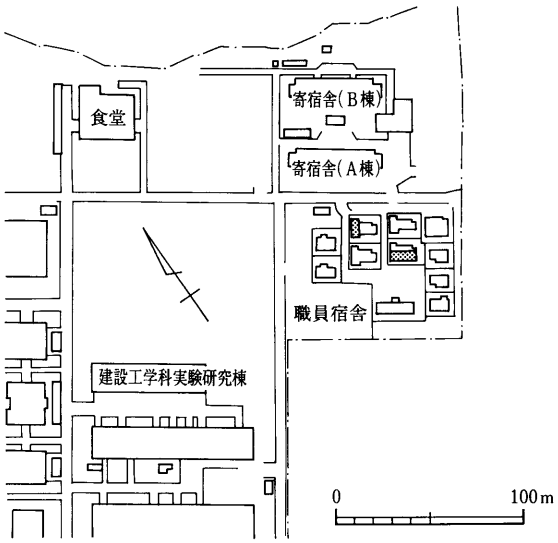

Fig. 63　調査区位置図

2　大学祭展示物設置に伴う立会調査

調査地区　常盤構内

調査期間　平成４年11月16日

調査方法　工事施工時における立会調査

調査面積　約７㎡

調査結果　埋蔵文化財資料館は昨年度、工学部大学祭（常盤祭）に伴う模擬竪穴住居製作の掘削に立会った[1]。今年度もまた同じ位置で、竪穴住居の製作が計画された。位置確認のため、今回も埋蔵文化財資料館が立会った。掘削の規模は縦横約2.5m、深さ約25㎝で、４個の柱穴の部分はさらに30㎝深い。土層の堆積状況は、構内造成時の埋め土が約30㎝の層厚で客土されており、その下には基盤である蛇紋岩の岩盤が確認された。

既往の調査の結果から、常盤構内は造成時に大規模な削平が行われており、遺構が存在していたとしてもすでに消失している可能性が高いと考えられる。しかし、常盤構内全体にわたる埋蔵文化財の有無や分布状況を判断するためには、今後も立会調査や試掘調査などの継続的な調査の必要がある。

〔注〕

１）山口大学埋蔵文化財資料館「大学祭展示物設置に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報』XI、1993年）

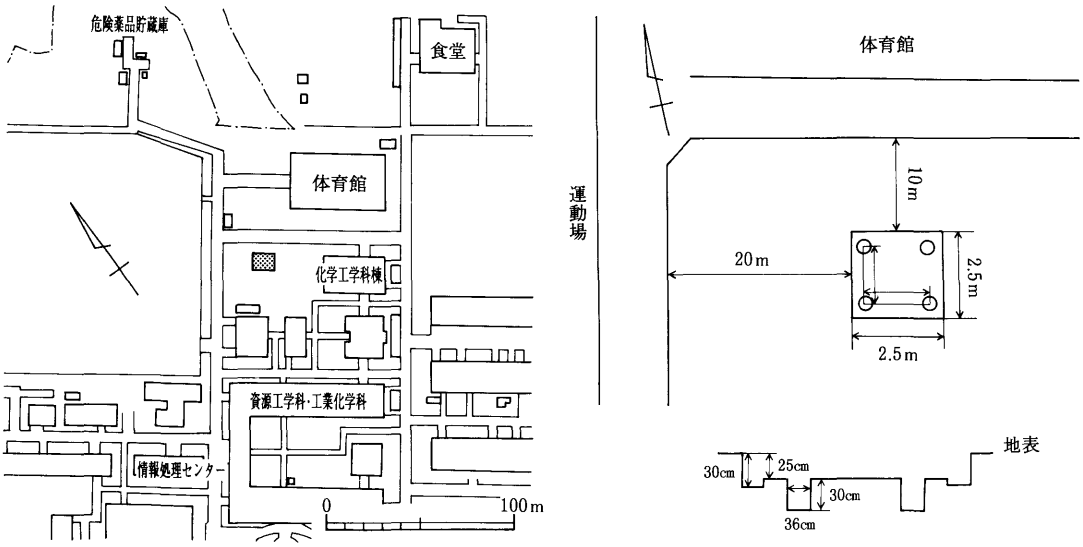

Fig. 64　調査区位置図